

資料提供

月 日 (曜日)	担当課 (室)	電話	担当者
4月24日 (火)	近代美術館	088-668-1088	安達・吉原

近代美術館の資料の収集について

平成18年度、県立近代美術館において収集した資料は、次のとおりです。

収集資料

【購入】 広島晃甫〈烏鷺図〉(日本画) 等 (詳細:別紙リスト1~3頁)	33点
【寄贈】 市原義之〈映ゆ〉(日本画) 等 (詳細:別紙リスト4~5頁)	27点
	計60点

なお、個人からの購入、寄贈につきましては、「徳島県情報公開条例」の規定に基づき、氏名を公開いたしません。

収集資料一覧(平成 19 年 3 月)

今回収集点数 60 点 今回収集額 17,200,000 円

購入

小計 33 点 17,200,000 円

番号	種別	作家名	作品名	数量	制作年	価格 (円)	寸法 (縦×横) cm	購入先または寄贈者
01	日本画	広島晃甫	紫衣の女	1	1925	800,000 円	108×41.5	有限会社 ゆーじん
02	日本画	広島晃甫	鳥鷺図	1	1934	2,950,000 円	176×422	有限会社 ギャラリー芳山堂
03	日本画	広島晃甫	鳶尾草	1	1922	510,000 円	46.5×51.4	売買を業としない個人 収集家等からの購入に つき公開しない
04	日本画	広島晃甫	松竹梅	1	1926	850,000 円	120.8×34	
05	日本画	広島晃甫	夕陽山水	1	大正一昭和初期	430,000 円	35.5×48.8	
06	日本画	広島晃甫	不二山	1	大正一昭和初期	820,000 円	110.8×41.5	
07	日本画	広島晃甫	牡丹	1	大正一昭和初期	510,000 円	34.6×45.8	
08	日本画	広島晃甫	新柳宿雀	1	大正一昭和初期	1,020,000 円	131.6×41.8	
09	日本画	広島晃甫	猫	1	大正一昭和初期	430,000 円	124.1×30.6	
10	日本画	広島晃甫	兎	1	大正一昭和初期	260,000 円	45.4×56.6	
11	日本画	広島晃甫	蝶に露草(仮称)	1	大正一昭和初期	230,000 円	36×41.3	
12	日本画	広島晃甫	秋溪	1	大正一昭和初期	1,020,000 円	117.5×37.7	
13	日本画	広島晃甫	扇面屏風(仮称)	1	大正一昭和初期	920,000 円	65.2×87.9	
14	日本画	守住勇魚	管絃之図	1	1919	700,000 円	127×51	松本松栄堂
15	版画	吹田文明	機械 No.65	1	1957	110,000 円	45.2×60.5	売買を業としない個人 収集家等からの購入に つき公開しない
16	版画	吹田文明	胎動 B	1	1960	110,000 円	46×61	
17	版画	吹田文明	氷湖	1	1963	110,000 円	45×58	
18	版画	吹田文明	嵐の中の旗	1	1964	110,000 円	45.4×60	
19	版画	吹田文明	land 陸	1	1970	330,000 円	91.8×60.5	
20	版画	吹田文明	遭遇	1	1982	330,000 円	90.5×60.2	
21	版画	吹田文明	明日は雨	1	1988	330,000 円	60×88.2	
22	版画	吹田文明	南に散りし友に 捧ぐ II (戦後 50 年の鎮魂詩)	1	1995	330,000 円	90×60	
23	版画	吹田文明	白鳥座	1	1997	330,000 円	91×60	
24	版画	吹田文明	銀河を渡る B	1	1998	330,000 円	60×87.5	
25	版画	吹田文明	矢羽根飛ぶ	1	2003	330,000 円	60×89.8	
26	版画	吹田文明	悲しみの二ヶ	1	2003	330,000 円	60×90	
27	版画	吹田文明	何処へ	1	2006	330,000 円	60×90	
28	素描	吹田文明	迷い道	1	2001	70,000 円	16.2×26.3	

29	素描	吹田文明	貴婦人	1	2001	70,000 円	23.6 × 16.3	
30	素描	吹田文明	歩く蟹	1	2001	70,000 円	34.8 × 12.5	
31	素描	吹田文明	流れの中の井形	1	2001	70,000 円	22.4 × 34.5	
32	素描	吹田文明	(無題)	1	2001	360,000 円	59.8 × 89	
33	水彩	三宅克己	あさやけ	1	1907	1,700,000 円	37 × 46	有限会社 いのは画廊

寄贈

小計 27 点

番号	種別	作家名	作品名	数量	制作年	寸法(縦×横) cm	購入先または寄贈者
01	日本画	市原義之	映ゆ	1	1979	200 × 200	公立学校共済組合徳島支部
02	日本画	上野泰郎	生きる人Ⅱ	1	1959	175.0 × 129.6	売買を業としない個人収集家等からの寄贈につき公開しない
03	日本画	上野泰郎	地のむれ	1	1981	144.0 × 188.6	
04	日本画	上野泰郎	野にみつ	1	1997	180.0 × 263.6	
05	日本画	川端健生	稻荷	1	1987	170 × 123.5	
06	日本画	広島晃甫	松竹梅繪襦袢	1	1942	181 × 130	
07	版画	吹田文明	城	1	1957	60.7 × 45.5	
08	版画	吹田文明	逃る	1	1957	46.3 × 63	
09	版画	吹田文明	機械	1	1957	60.4 × 45.5	
10	版画	吹田文明	風の方向	1	1964	60.4 × 45.2	
11	版画	吹田文明	暮色	1	1970	91.6 × 61	
12	版画	吹田文明	白い風景	1	1975	91 × 60.6	
13	版画	吹田文明	赤い星	1	1983	68.2 × 59.6	
14	二次資料	伊原宇三郎他	伊原宇三郎他 画帳	2	1952		
15	二次資料	広島晃甫・資料	広島晃甫関係資料	12			

広島晃甫<鳥鷺図>

1934年 絹本着色 六曲一双屏風

広島晃甫（1889～1951年 本名一新太郎）は、徳島市生まれの日本画家です。東京美術学校（現在の東京芸術大学）を卒業。1919年の第一回帝展（帝国美術院美術展覧会）と翌年の第二回帝展で特選を連続受賞し、その清新な画風が画壇の脚光を浴びました。その後も、同展や新文展（文部省美術展覧会）で活躍し、審査員をつとめるなど、美術界で重きをなします。大正から昭和にかけての新しい日本画の流れを語るうえで、欠かすことのできない画家の一人です。

<鳥鷺図>には、虹の間を飛ぶ白鷺と夕暮れどきのカラスが、対となるようにして描かれています。六曲一双の屏風に表され、金泥を用いた華やかでスケールの大きな画面です。本作は、伊藤深水（いとう しんすい）や山口蓬春（やまぐち ほうしゅん）などといった、当時の人気作家が力作を競い合った第三回青々会展（1934年・東京）に出品されたもので、広島の昭和初期を代表する作品といえるでしょう。

左隻



右隻



三宅克己<あさやけ>

1907年 水彩 紙

三宅克己（1874～1954）は、現在の徳島市に生まれた画家です。1897年に渡米し、イエール大学付属美術学校に学んでいます。その後、国内だけでなく、欧米や中国などへしばしば写生旅行を行い、透明水彩を使った繊細な表現を追求しました。水彩画にかんする多くの著作でも知られています。1899年白馬会会員。1912年に光風会創立に参加。また、1907年に文展が開設されて以来、文展、帝展、新文展、日展に出品し、活躍しました。1951年には日本芸術院恩賜賞を受賞。日本の水彩画史における重要な作家の一人に挙げられています。

<あさやけ>は、文展（文部省美術展覧会）の第1回展に出品された記念すべき作品で、早朝の微妙な光を表そうとする試みを見ることができます。三宅は、翌年の二回展、1909年の三回展に連続して受賞をはたし、画壇の上でも高い評価を受けますが、本作品は、その受賞につながる位置をもつ貴重な作例と言えるでしょう。

